

# 拠点運営での取組報告

事業報告

よりなん

2022.11.9

## 高齢者支援ネットワーク交流会



### ●協働先

おしゃべりサロンじゅげむ

### ●事業成果

総来場者数:32名

地域で活躍する事例を聞くことで自分には何ができるのかと自分事としてとらえる機会を提供しました。また、グループワークでは自分の活動の課題等を話し合うことで、顔の見える関係づくりの場を創出しました。



よりなん

2023.1.22

## 町内会サミット



### ●協働先

岡崎支所圏域総代会

### ●事業成果

総来場者:43名

これまで町内活動をするうえでの課題や取組について他町に共有する機会が少なかったため、参考になる取組やアイデアの情報を共有する場が提供できました。また、南部地域の総代と顔の見える関係のきっかけ作りの機会となりました。

なごみん 2023.2.25

## 地域活動サミット～歴史探究者の集い～



### ●協働先

中根豊三商店(ガラ紡工場)、松平輝きの600年推進懇話会他

### ●事業成果

総来場者数:59名

過去数年間に渡り行ってきた北部地域のまち歩きをきっかけに、個々に活動をしていた人たちを集め本会を実施したことで横のつながりを創出する場を提供できました。

やはぎかん 2023.3.4

## 開館15周年記念事業 市民活動フェス2022



### ●協働先

なし

### ●事業成果

総来場者:293名

コロナ禍で市民活動団体が活動を啓発する機会、ならびに市民と対話する機会が減少している中で貴重な受け皿となりました。また、市民活動団体だけでなく、地域団体や事業者、地元商店会と連携したことにより多様な活動を啓発できました。

イベントレポート やはぎかん 2023.2.11



### 矢作地域活動支援子育て編「お米のちから」

無農薬・無化学肥料のお米や野菜を育てている矢田ファミリー農園(北野町)とのコラボ企画。お米の可能性について学んだ後、矢田ファミリー農園産のお米で作られた米麹の甘酒と野菜をふんだんに使ったポタージュを楽しみました。「講師×参加者」の枠を超えて、同じ地域で同じ興味を持つ仲間という雰囲気で活発な意見交換もできました。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114	
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2023.05 vol.121

発行・編集

特定非営利活動法人  
岡崎まち育てセンター・Litaracy

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6  
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898  
<http://www.okazaki-lita.com/>  
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

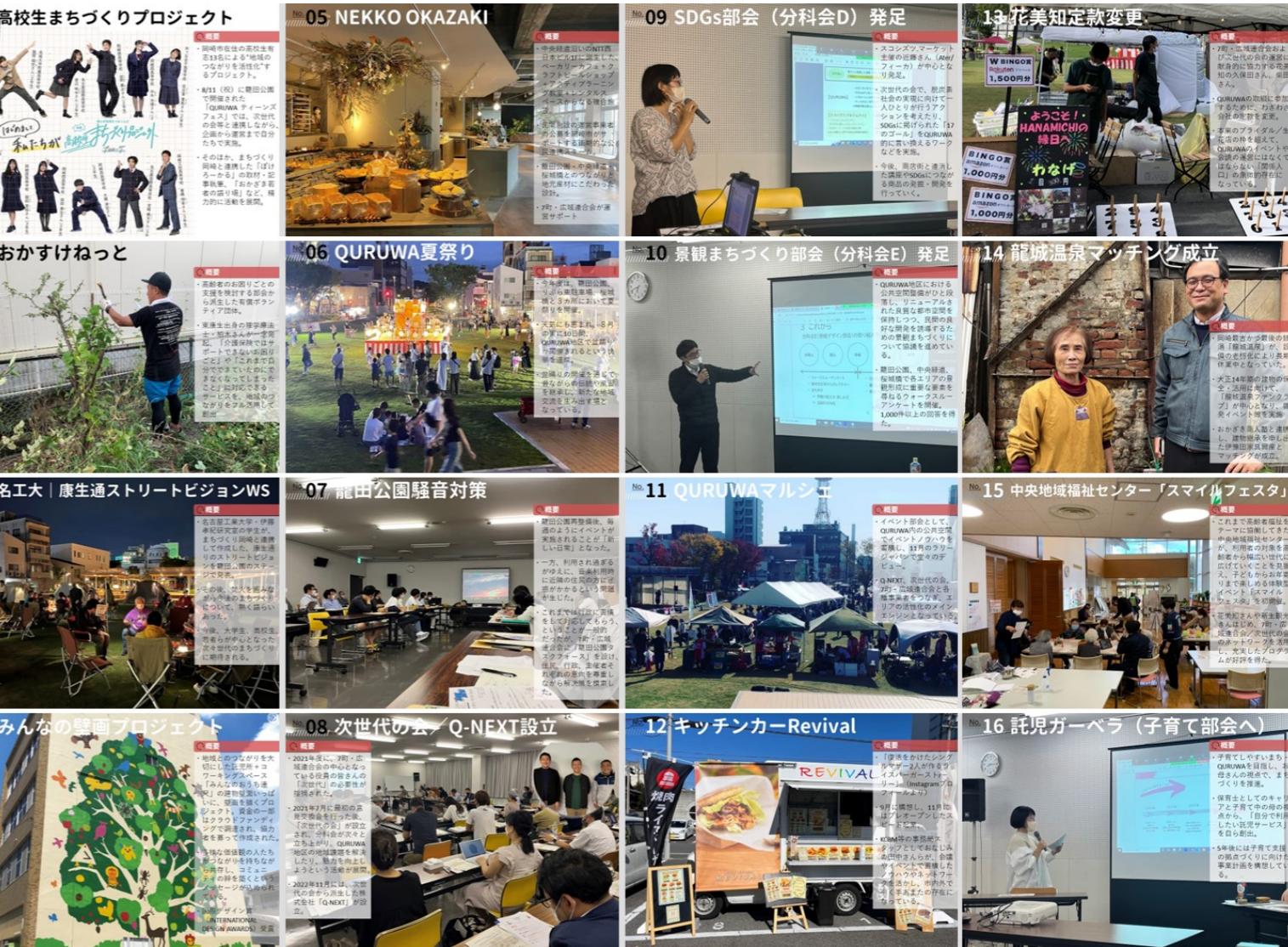
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター  
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／  
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／松應寺／cafeくらがり

まちのミカタ

Litaracy 一りたらしいー



特集

## 「QURUWAアワード2022」に見る新しい地域の担い手の可能性

2023年3月13日、次世代の会定例会において「QURUWAアワード2022」が初開催されました。QURUWAアワードとは、7町・広域連合会および次世代の会関連の1年間の取組を振り返り、関わった皆さんの労をねぎらうと共に、次の1年の活力を高めることを目的としたもの。

本誌108号で紹介した「7町・広域連合会」から、地域活動や自治に関わる次の世代を増やしていくこうと、30-40代の地域内外の住民や事業者、行政職員等が中心となり「次世代の会」が立ち上がったのが2021年7月。以後、約1年半で空

き家、高齢者の生活支援、SDGs、景観等、5つの部会が創設されるなど、次から次へと新しい活動が生まれてきています。2022年に新たに生まれた取組から、QURUWAアワード候補としてノミネートされたのが上の16のプロジェクト。

全国各地で地域活動の担い手不足が叫ばれる中、なぜこれほど様々な担い手や活動が生まれるのかー今号では、次世代の会の経緯とQURUWAアワードを取り上げ、担い手不足解消のヒントを探ります。

# 「QURUWAアワード2022」に見る 新しい地域の担い手の可能性

## ●地域活動の担い手不足と次世代の会

「地域活動の担い手不足」は、岡崎市に限らず、全国各地で共通の課題となっています。内閣府が全国の自治体を対象に行なった調査(※1)によると、「役員・運営の担い手不足(86.1%)」、「役員の高齢化(82.8%)」を課題として挙げている自治体が8割以上にのぼります。※1 内閣府(2017)「持続可能な自治会活動に向けた男女共同参画の推進について」より

これまで、一般的に地域活動の主力として、自治会や地域の活動を前期高齢者(65才~74才)が支えてきました。しかし、これからは、いわゆる団塊の世代が後期高齢者へ移行することで、前期高齢者の絶対数が減少。加えて、定年年齢の引き上げ等の影響で、前期高齢者の就業率が上昇してきており、地域の担い手はますます枯渇していく傾向にあります。

一方、籠田公園周辺の住民アンケートでは、20-40代の大半は、地域活動に関心はあっても時間的余裕がなくて関わっていないことが明らかになりました。こうした背景から、地域活動や自治に関わる次の世代を増やしていくうと、30-40代の地域内外の住民や事業者、行政職員等が中心となり立ち上がったのが「7町・広域連合会 次世代の会(代表:佐谷 繁氏)」です。

## ●QURUWAアワードのねらい

この1年間の次世代の会関連の主な出来事を振り返ると(右表)、多種多様な取組が生まれてきています。QURUWAアワードのねらいは、目まぐるしいほど勢いで動いた1年間の活動を振り返り、関わった皆さんの労をねぎらうと共に、次の1年の活力を高めること。次世代の会事務局と市、りたりにより、次世代の会の定例会に議題として持ち込まれて部会として発展したものの及び派生プロジェクト(②、⑥、⑨、⑩、⑪、⑭、⑯)、公民の協働パートナー主催の事業(①、③、④、⑤、⑯)など16のプロジェクトをノミネートし、次世代の会参加者の投票により、以下の3部門に相応しいプロジェクトを選定しました。

**A.新規活動部門** 果敢なチャレンジ精神で新たな活動領域を開拓

**B.課題解決部門** 創造的な発想と行動力で地域の解決に寄与

**C.魅力創造部門** 将来のまちの財産となるような魅力創出に貢献

A.新規活動部門には①高校生まちづくりプロジェクト(岡崎市ふくし相談課)、B.課題解決部門には②おかすけねっと、C.魅力創出部門には⑩景観部会(岡崎市まちづくりデザイン課)が選ばれました。3部門のうち2部門で行政のプロジェクトが選ばれたのは、「普段、苦情や文句は言われても感謝やお礼はされない公務員の努力にも光を当てたい」という次世代の会の姿勢を反映していると言えます。

## ●次世代の会に学ぶ地域活動の担い手づくり

では、なぜQURUWAではこれほど多くの取組や担い手が現われるのでしょうか。

次世代の会は、籠田公園・中央緑道周辺の自治会連合組織「7町・広域連合会」の下部組織という位置づけですが、若手の自主性・自発性を尊重し、活動の自由度が担保されています。また、事業者に対してビジネスとして関わることを推奨することで、現役世代や事業者の参画を促しています。QURUWAで何かをしたい、始めたいという人に常に門戸が開かれていて、次世代の会の定例会(※2)でPRしたり、議題を持ち込むことが可能になっており、公民問わず様々な相談が舞い込みます。相互理解と調整のプロセスを経て、結果的に地域と担い手が連携する新しいエリアマネジメントのプラットフォームとなっているのです。次世代の会の実践から、地域活動の担い手不足を解消するには、「(若手の)自主性・自発性の尊重」「ビジネス的関与を受容」という姿勢と「開かれた相談・調整の場」を設けることで、開かれた地域活動のプラットフォームづくりが有効であると考えられます。とはいえ、いきなりこうした仕組みを実装するのはハードルが高いので、まずは地域行事やイベント等で上記3つの要素を入れて小さく始めることをお勧めします。りたとしても、そうした活動を応援してまいります。

※2 4月より次世代の会定例会は不定期開催となり、より気軽に参加できる交流会・寄り合いとして、毎月第3金曜日19時よりQURUWAエリアの「QURUWAサンキン会」が開催されます。詳しくは次世代の会/Q-NEXT・柏木さんまで→ka40gika210mo@gmail.com

## 市民が主体となり地域課題をビジネスの手法で解決!

2月4日(土)、東部地域交流センター・むらさきかんで「あなたの一步が地域を救う!?コミュニティビジネスのススメ」を開催しました。この交流会では地域の困りごとを解決するためのコミュニティビジネスを既に始めている方や、これから始めようとした方、ビジネスとは関係なく自分の得意な事を活かして社会の役に立ちたいと考えている方など様々な立場の方に参加してもらい、コミュニティビジネスに関わる方同士の交流の活性化を図ることを目的とし、コミュニティビジネスの実践者からノウハウややりがいなどについて学びました。当日はリタイヤ後に高齢者の居場所、おしゃべりサロン「じゅげむ」を起業した柴田雅人さん、移動スーパー「とくしま」を脱サラし起業した河西靖さん、高齢者の生活支援「おかげねっと」(Litaracy vol118参照)を立ち上げた柏木克友さん、世代や立場の違う3名の方から事業を始めるきっかけや活動をしていて良かった事や大変な事、参加者に伝えたい事などを伺いました。すでに一步を踏み出した実践者からは色々な考え方があるが、自分に合った形で小さく事業を始めてみるのが良いかもとアドバイスがありました。

その後の質疑応答タイムでは参加者からたくさんの質問がありコミュニティビジネスへの関心の高さが伺えました。今まで培ったノウハウの提供もできるとのこと。興味のある方は、コミュニティビジネスを始めてみてはいかがでしょうか?

むらさきかんでは、地域を支えるコミュニティビジネスに関わる方がより一層増えると共に、地域課題の解決に繋がる支援を様々な事業を通じて行なっています。



▲普段あまり聞く機会が無いコミュニティビジネスの実情を聞く事ができました。

## りた's Eye

団体からの活動資金や担い手不足により会を継続していく事が難しいなどの悩みを受けて、この事業を企画しました。今回話を伺って、始めたきっかけはそれでも、社会に貢献したい思いは同じだと感じました。また、自分がやりたい事だけをするのではなく、困っている人のニーズに応える事もコミュニティビジネスには必要な要素だと思いました。

## りたの職員の思いを伝える!

### コラム ~rita column~



▲私と娘二人で散歩中。  
下の娘 はわんちゃんにずっと声をかけています(笑)

## ポジティブボランティア始めました!

「これやつたらいいかられる?」最近、お金の価値を理解し始めた小学生の娘は、お手伝いをすると「おこづかい」をもらえるものだと覚えたのです。間違ってではないと思う反面、「おこづかい」をもらえるから、家のお手伝いをするというのは、ちょっと違うかなと私は感じました。

そこで、高齢者の生活支援「おかげねっと」のサポートである私は、ボランティア活動に子ども達と一緒に連れて行くことにしました。魅力的なののは、有償ボランティアであること。仕事をする感覚に近い体験をさせられると思ったからです。あくまでボランティア活動をするのは私ですが、代表者の柏木さんと利用者の方に承諾を得て、子ども達も参加させていただきました。内容としては、事情がありワンちゃんの散歩に出かけられなくなってしまったため、代理で散歩に行くというものです。

実際に始まってみると、娘たちは、ワンちゃんの散歩に大喜び。うんちやおしつこの処理も積極的にやっています。利用者さんとも散歩前後にはお話をし、無理なくよい関係ができてきました。最初は、お金を稼ぐという疑似体験をさせるために参加したボランティアでしたが、「ボランティア=経験や人とのつながりを広げる」というポジティブな感覚が子ども達に根付いたことが本當によかったなあと思います。子どもを連れてのボランティアは限られていますが、今後も積極的に参加していきたいです。

岩川厚子(3年目りたの職員)

今まで、やはぎかん、市民活動センターに勤務。事務局にて広報を担当。私生活では、2児の母として、仕事と育児に奮闘中。

